

フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「わちあい」・「ありがとう」へ



基本情報 2022年度の累計 (2021年度寄贈287ト提供270ト)

寄贈 262.6ト 前年同月比146% 提供 274.5ト 前年同月比150%

12月

寄贈食品計	29.8ト	提供食品計	293回	32.5ト
企業・生協等	20.4ト	行政・社協	56回	5.8ト
フードドライブ	9.0ト	地域フードバンク	79回	12.4ト
寄付金購入	0.4ト	こども食堂等	129回	12.6ト
		施設・福祉・外国 関連	29回	1.6ト

合意書締結団体

寄贈締結団体	256団体
提供締結団体	314団体
行政・社協	61団体
市民団体	253団体
(子ども食堂・居場所・施設・ 福祉関係)	
フードドライブ回収拠点	340か所

賛助会員寄付状況

団体会員	215団体 682口
	682万円
個人会員	307人 1733口
	1,733,000円
寄付金	
2022年度	15,821,026円
累計	69,845,882円

代表理事 年頭のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。フードバンクかながわをこれからもよろしくお願いします。

共同代表 當具 伸一

神奈川県生活協同組合連合会会長/
生活協同組合ユーコープ理事長

共同代表 吉坂 義正

連合神奈川会長/
神奈川県労働者福祉協議会会長

日頃は、フードバンクかながわへのご支援・ご協力大変ありがとうございます。皆様のおかげで、フードバンクかながわも3月に設立5周年を迎え、食品提供団体314団体、食品寄贈団体256団体と大きくなってきております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大のもと、地域社会の中で格差と貧困（経済的貧困・社会的孤立）はますます広がり、食支援を求める声は大きく、これまで以上にフードバンクかながわの役割発揮が求められています。

今後は、神奈川県内の主要な地域に、地域フードバンクが立ち上がり、フードバンクかながわがハブとなりながら、「フードバンクかながわー地域フードバンクー寄り添い型支援団体」といったかたちで、神奈川県内の食支援のネットワークを創ることができればと考えています。

これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようによりしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、国民生活を一変させ、今なお収束が見通せない状況にあり、長期化するコロナ禍に物価高騰が追い打ちをかけ、不安定雇用、貧困や格差の拡大もあいまってフードバンクかながわへの支援要望も増えています。こうした中で、フードバンク活動に、ご支援・ご協力頂きました皆さま方に、心から感謝申し上げます。

私たち労働団体も引き続き各種活動の中で「お米一合運動やフードドライブ」に積極的に取り組むとともに、労働団体の連携を強化し「フードバンクかながわ」の安定した事業運営と、更なる事業拡大に向けて「知ってもらう、伝えてもらう、行動する」を基調に運動に取り組んでまいります。皆さま方の引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

寄 贈 (入庫)

寄贈重量29.8トは前年比121.0%。食品企業からの冷凍食品大量寄贈があった。フードドライブも既に70トを超え、昨年度重量に迫る勢い。

○事業者寄贈 紙面に限りがあり敬称略で報告します

マルハニチロ（冷食1.7ト）、セブン&アイ・フードシステムズ（冷食2.9ト）山崎製パン（パン0.3ト）、相鉄ローゼン（米0.5ト）、ミツハシライス（米0.6ト）、よこすか葉山農業協同組合（キャベツ0.6ト）、富山県漁連（冷凍魚）、キンビバレッジ（飲料6.7ト）、味の素AGF（飲料2.1ト）、コカ・コーラ（飲料1ト）、日本食研（めんつゆ）、ファンケル（発芽玄米）、オリエントペーカリー（パン）、日生協（バウムクーヘン）、ユーコープ（米等）、他

○防災備蓄品

東芝横浜事務所、日新産業、神奈川信用保証協会、マクニカ

○フードドライブ

イトーヨーカドー（26店舗）、無印良品（39店舗）、そうてつローゼン、イオン、ヨークマート、神奈川県庁、神奈川トヨタ自動車、相鉄バス、スズキ自販湘南、東急モータースディーペロップメント、中栄信金、かながわ学生ボランティア連合、こくみん共済COOP、リュウカンパニー、金泉寺、栄区役所、三井住友海上、ドコモCS神奈川支店、武部鉄工所労組、生活クラブ復興まつり、生活クラブ本牧デポー、ユーコープ、パルシステム神奈川、パルゆめつなごう展、セカンドリーグ神奈川、富士フィルム生協、横浜労協、横浜戸塚地域連合労協戸塚支部、三浦半島労協、ワークピア横浜、他

○米一合運動/プロジェクト

神奈川県労協協（マッチングギフトで1.3ト）、電機連合東芝マテリアル労組、ヤマト運輸労組、ユーコープ県央3エリア会、アネスト岩田、湘南労協

提 供 (出庫)

提供重量32.5トは前年比134.8%。冷凍食品は子どもでもすぐ食べられると人気で、大量入庫するも直ぐに品薄になる状況。

○行政・社協・委託 30団体

横浜市・区社協、横浜ひとり親支援（母子寡婦福祉会）、相模原市、横須賀市、鎌倉市、厚木市、海老名市、小田原市、葉山町、神奈川県社協、藤沢市社協、平塚市社協、逗子市社協、綾瀬市社協、二宮町社協、他

○地域のフードバンク 40団体

スマイルネットありがとう、たすけあい、フードコミュニティ、くろーばーマーケット、カナン・キリスト教会、お福わけの会、川崎医療生協、さろんどて、セカンドリーグ神奈川、ビーバーリンク、国際交流B.P Solution、FBふじさわ、FB浜っ子南、神奈川FBプラス、FB湘南、他

○こども食堂居場所等 91団体

ひまわり、キッズカフェ杉田、金沢こども食堂すくすく、アフリカヘリテイジコミュニティ、アスリード、てらこや食堂ラッキーズ、かえでこども食堂、キッチンうめちゃん、たいしょう食堂、となりのレストラン、RCB大口夢、にのみやこども食堂便、ドリームセンターこどもカフェ、久木みんなの食堂、横浜みどりの学校ひまわり、りり庵、横浜市立大学、満福うえのまち食堂、こどもすまいる食堂、おだわら児童館連合、おもしろカンパニー、ひまわり、平塚YWCA、モンドこども食堂、よこすかなかながや、他

○福祉・病院・外国関係 20団体

ブラジルSolidario、スマイルオブキッズ（リラの家）、DV対策センター、カラー、K2インターナショナルグループ、かながわ外国人すまいるサポートセンター、みらいあいのいえ、神奈川ゆめ社会福祉財団、相模、他

12月のフードバンク

コロナ禍で一層深まった格差貧困の拡大に加え、ウクライナ侵攻の影響による、食料や燃料の高騰など、人々の暮らしに様々な影を落とし、経済的、社会的孤立が深まっていた2022年でした。このような社会の状況下ですが、人々のたすけあい・分かち合う活動は広がり、「もったいない」を「わちあひ」「ありがとう」へと繋ぐフードドライブが市民社会に定着してきているようで嬉しいことです。また、多数の方々からご寄付をいただき、今年度の目標額を早くも突破しました。今年もまだ厳しい状況が続くと思われませんが、フードバンク事業を通じた地域のたすけあひへの参加・協力を広げ、未来を切り開いていきたいものです。



フードバンクかながわ
ホームページ

ご寄付ありがとうございました



JA横浜女性部様より



旭化成(株)労組様
一円玉募金ご寄付



JAよこすか葉山農協様よりキャベツのご寄付
来店型フードバンクを運営するNPO法人さくらんぼさん他へ

神奈川県労働者福祉協議会 米マッチングギフトの取組



10/1から約3か月間米一合運動に取り組み、集まった米の重量と同量の米1300kgをご寄贈いただきました。



中栄信用金庫様



キリンビバレッジ(株)様より飲料



(株)オリエンタルペカリー様



(株)セブン&アイ・フードシステムズ様より冷凍ハンバーグ



(株)スズキ自販湘南様



トヨタモビリティパーツ(株)様

クリスマスにすてきなお菓子のご寄付 ありがとうございました★★★



(株)伊達建設様



大和リース(株)様



←栄区役所様



アネスト岩田(株)様



YSCC横浜様



三浦半島労協様



湘南労協様



日立労組ソフト支部様



こくみん共済coop様より



リュウカンパニー(株)



神奈川県庁様

食品ロス削減コースターデザインコンテスト作品募集

【部門および賞】 応募期間：2023年1月1日～2月24日

2/28
必着

◇一般部門

最優秀賞 (1名) QUOカード1万円

優秀賞 (2名) QUOカード5千円

◇中・高生部門

最優秀賞 (1名) QUOカード5千円

優秀賞 (2名) QUOカード2千円

◇小学生部門

最優秀賞 (1名) QUOカード5千円

優秀賞 (2名) QUOカード2千円

【応募資格】

「フードバンクかながわ」加盟団体の組合員・職員とその家族

【応募方法】

◇フードバンクかながわホームページにて応募内容をご確認ください。

◇応募の際は応募用紙をホームページよりダウンロードし記載をお願いします。

◇作品は、手書き原本、JPG PDFいずれかのファイル形式で保存して、郵送もしくはメールでご応募ください。
info@fb-kanagawa.com

第3回政策研究会 開催報告 (2022.12.6)

コロナ禍での子ども食堂

金沢こども食堂すくすく 加々美マリ子さん

ご自身のお子さんがいじめから不登校となった体験から、子ども食堂を始めた加々美さん。「おなかだけでなく、心も満たす活動」を目標に、ひとり親世帯を対象に活動を始めました。そこで感じたのは、子どもたちは圧倒的に「体験」が少ないということ。周囲からの協力も得て、さまざまな体験の場を作っていたそうです。

コロナ禍で仕事が減って、働く場を無くしたお母さんや突然休校になり居場所を失った子どもたちの痛みや悩みに沿い、食品をコミュニケーションのツールとして、関係性を紡ぎながら寄り添う姿に、市民活動の力強さと自在性を感じました。